

《原 著》

悪性腫瘍症例の骨シンチグラフィで観察された 孤立性 hot spot の評価

鞆田 義士* 石野 洋一* 中田 肇*

要旨 悪性腫瘍症例に骨シンチグラフィを施行し孤立性 hot spot を認めた場合、転移性骨腫瘍か否か判断に迷うことがしばしば経験される。今回このような悪性症例に対する骨シンチで認められた孤立性 hot spot について、その意義を評価した。悪性腫瘍の治療前後の経過を通じて骨シンチ上孤立性 hot spot が認められた肺癌 121 例、乳癌 36 例、前立腺癌 28 例を対象として、指摘された hot spot が実際に骨転移であった頻度を原発腫瘍別に求めたところ、肺癌 30 例 (24.8%)、乳癌 8 例 (22.2%)、前立腺癌 4 例 (14.3%) で、原発巣による差は認めなかった。部位別に検討すると、骨盤、肩甲骨、胸椎で孤立性骨転移の頻度が高く、この部位に hot spot をみた場合は孤立性でも注意が必要と思われた。鑑別には局所の骨疼痛などの臨床症状の有無を参考にすることも有用であった。

(核医学 38: 721-726, 2001)